

毎月15日は川崎市民地震防災デーです。

S O N A E R U

準備



1992
No.79



かわさき防災広報紙

1992年(平成4年)10月21日 発行
発行所 川崎市
編集所 土木局防災対策室
〒210川崎市川崎区宮本町1番地
TEL (044)200-2111内線2811

SERIES
第3回

「ライフラインを守れ！」

そのとき、電話は……

電話は身近な通信システムとして、今や生活に欠かすことのできないものとなっています。

万一、大きな災害が発生した場合、その果たす役割はさらに重要なものとなります。

ご家庭の安全を確かめたり、被災地の身内や知人の安否をたずねたり、また警察・消防など、災害救助に関する通信にも電話が利用されます。しかし、災害はいつ起こるかかわらないもの。NTTでは、災害に備えて情報ネットワークの充実を図り、万一災害が発生しても電話による通信システムを確保できるように、様々な災害対策に取り組んでいます。

NTT川崎支店
(044) 200-6211
NTT川崎北支店
(044) 711-3991

災害が発生したら……

NTTは、まず通信を確保します。

災害により、通常の通信設備が機能しなくなった場合には、通信衛生や無線通信設備を使用して、ただちに通信を確保するように努めます。また防災機関等の重要な通信は、優先的に確保します。

■電報・電話が込み合った場合、防災機関等が行う災害救助等の重要通信を確保するため、電話の利用、電報の受付を制限することがあります。

■川崎市指定の避難場所やNTTの窓口などに、「無線電話機」等の特設公衆電話を設置します。

また、一般電話の混雑の度合いに応じて通話を規制することがあります。青・黄・緑色の公衆電話は、優先的にかかるしくみになっています。

■NTTの通信回線や交換設備に大規模な被害を受けた場合、非常用交換機や移動無線車等を出動させ、早期復旧に努めます。

災害が発生したら……

地震がおさまったら、受話器がきちんとかかっているかを確認してください。

安否の連絡や被災地への電話はできるだけ手短かに。



災害に備えて 連絡ルートを

万一の災害に備えて、あらかじめ、ご家族やご親戚との連絡ルートを決めておくこと早く連絡がとれ安いです。例えば被災地へはどなたかが代表してかけ、その方がご家族やご親戚などに連絡するようルートを決めておけば、「電話の渋滞」も避けられ、一回の通話で多くの人に連絡することができま



南関東地域直下に
マグニチュード7、
震度6の地震が起きる!?

この程、中央防災会議(会長・宮沢喜一首相)の地震防災対策強化地域指定専門委員会は、南関東直下を震源とするマグニチュード7規模の地震が発生した場合、震度6(烈震)以上となる地域が東京、千葉、埼玉、神奈川、茨城、山梨、静岡の7都県282市町村に及ぶとの報告をまとめた。

報告では、直下の地震の発生の可能性が高まっており、100年か200年先に発生する可能性が高いと考えられている次の相模トラフ沿いの地震(関東大地震)の再来が起るまで、直下の地震が数回発生することが予想されるとし、震度6相当以上になると推定される地域を別図のとおり示しています。この推定地域は、19の地震発生断層を設定し、各々マグニチュード7規模の地震が発生した時に、震度6相当以上となる範囲をすべて示したもので、その地域は概ね半径30km程度と報告されています。なお、直下の地震の予知は、震源域を特定することができないことから、非常に難しいとされています。

中央防災会議はこれを受けて、防災意識の高揚へ自主防災活動等の推進へ震災訓練の実施などを柱とする「南関東地域直下の地震対策大綱」を策定。川崎市を含む関係自治体に対して、官民一体となった防災対策の整備を急ぐよう通達しました。本市ではこの通達を受け、本市地震防災計画の見直しをするとともに、地震に強い都市づくりに向けて、今まで以上に防災対策の推進を図っていきます。

直下の地震により
震度6以上になると推定される地域



みんなで守ろう わが家 わがまち

防災フェア'92開催

(8月27日～9月1日)

—— たくさんのご来場ありがとうございました。 ——

「防災フェア'92」は、地震・風水害といった災害についての、正確で、わかりやすい情報を広く紹介することにより、市民の皆様にご家庭での日頃の備えと、いざ災害が発生した時の心がまえ・行動力を、身に付けていただくことを目的として開催されました。おかげさまで、期間中は、約12万人もの皆さんの皆様にご来場いただきことができました。本当にありがとうございました。

川崎市では、去る8月27日から9月1日までの6日間、国土庁・防災週間推進協議会との共催により、「みんなで守ろう わが家 わがまち」をテーマに「防災フェア'92」を開催いたしました。会場は川崎駅前さいか屋6階催場、川崎地下街アゼリア（スタジオアゼリア）、そしてチネチッタ広場（チネピアツア）の3ヶ所。開催初日には市役所通りにおいて、川崎市消防音楽隊・カラーガード隊など11団体の参加のもとオープニング・パレードを、また、期間中、川崎市産業振興会館大ホールにおいては、東京大学の阿部勝征教授、NHKの柳川喜郎解説委員をお招きして、防災講演会を行いました。



地下街アゼリアでは、防災ポスターコンクールにご応募いただいた作品を展示。



オープニングパレード



笑顔が素敵だった、気象庁イメージガールの奥山佳恵さん。



「防災寄席」柳家小せん師匠



オープニングセレモニーで、テープカットをする。左から、東家国土庁長官、高橋川崎市長



いつか必ずくる

「防災の日」

平成4年度川崎市総合防災訓練実施

残暑にも負けず5、6000人参加

去る9月1日の「防災の日」を中心とする防災週間中（8月30日～9月5日）、川崎市内外各地において、市民の皆さん・防災関係機関の参加のもと、平成4年度川崎市総合防災訓練が実施されました。

本年度の中央会場は、中原区上丸子八幡町先の丸子橋周辺多摩川河川敷。午前10時、川崎市域直下を震源とする、マグニチュード7、震度6の地震が発生。市内各所で家屋の倒壊や火災が発生し、被害者も多数の見込みといった想定で、周辺にお住まいの皆さんや、近隣小・中学生の生徒さん、また、今年と同区内に事業所を構える日本電気、三菱自動車工業、富士通の社員の方々など約5、600人が参加して、大がかりな訓練となりました。

今年初めての試みで注目されたのは、大地震により、川崎市から東京都内へ、東京都内から川崎市へ通勤する方々が、多摩川にかかる橋が落下したことにより帰宅できなくなった状況想定として、3機のヘリコプターと、高津区二子橋治いに架けた長さ75メートル・幅60センチの仮設橋を用いて、東京都・川崎市の両側から計4200人を移動させる「相互帰宅訓練」でした。この他、中原区内の自主防災組織・消防団・赤十字奉仕団の方々による避



難救助、給水給食、火災防ぎよなどの訓練が本番さながらに行われ、見学者の方々も日頃の備えと心構えの重要性を感じていらつしやるようでした。表面掲載の記事でもお伝えしましたように、中央防災会議（会長・宮沢喜一首相）はマグニチュード7程度の直下型地震発生時の切迫性を報告しています。これからのこのような防災訓練を繰り返し行うことにより、地震に対する備えを万全にしなければなりません。「自分たちのまちは、自分たちで守る」を合言葉に、まずご家庭内、そして町内会・自治会など身近なところから、日頃の防災対策を積極的に行っていきましょう。



「防災に関するお話」

させていただきます。

講演会講師派遣のお知らせ

川崎市土木局防災対策室では、市民の皆様からの依頼により、各区の町内会・自治会・自主防災組織において開かれる集会など、地域の皆様がお集まりになる機会を利用させていただきまして、防災に関する講演及び防災映画・ビデオの貸出しを随時行っております。ご希望の方がございましたら、どうぞ各区分所総務課防災担当か、左記のところまでご連絡下さい。

川崎市土木局防災対策室

☎2000-2794